

定時評議員会承認済

令和 7(2025)年度 事業報告

令和 7年 4月 1日から

令和 8年 3月 31日まで

公益財団法人 日本尊厳死協会

東京都文京区本郷二丁目 27 番 8 号

日本尊厳死協会の活動目的

日本尊厳死協会は、「人生の最終段階において、自己決定権に基づいた医療選択の権利が保障され、尊厳が損なわれることなく生を全うする社会の実現をめざす。」ことを目的とした活動を推進しています。

事業の総括

令和7(2025)年度事業計画に則り、実施した事業概況は次のとおりです。

1. 普及啓発事業

(1) リビング・ウイルの普及活動

- ① 草の根運動としての講演会やセミナー等による普及活動は、会場集合参加とオンラインを活用等により、講演会、セミナー及び出前講座の年間総数は、123回で参加者数が**4,722**名(前年度は開催数119回、参加者数4,981名)となりました。また、学会や各種イベントにおいて講演及び展示を通じた普及啓発活動を行いました。
- ② 雑誌は、中央公論新社『婦人公論』での広報活動を継続し、「小さな灯台プロジェクト」から提供される情報をもとに記事を掲載し、市民への情報発信に努めています。
- ③ ホームページでは、「新着記事」、「話題の記事」、「イベント・講演会のご案内」をタイムリーに発信するよう努めました。

(2) 受容協力医師数については、市民が居住地域で安心して過ごせる環境づくりを目的に、体制拡充に取り組んでいます。当初は登録増員100名を目標とし、2,250名体制を見込んでいましたが、年度初めの2,130名から15名減少し、年度末の登録者数は2,115名となりました。

(3) 九州支部佐賀県、長崎県の理事を中心に「第6回ファシリテーター養成研修会」を開催しました。在宅医療、プライマリ・ケア、緩和ケアの現場で働く医療・介護・福祉の有識者が集まり、協会活動の現況と今後の展望について意見を交わしました。

(4) ご遺族アンケートによる「看取りのエピソード」を定期更新し、『婦人公論』連載と併せて普及に取り組みました。「投稿ひろば」を新設し「情報BOX」も拡充しました。「看取りのエピソード」は累計569件、年間総アクセス数は約24万7千PVを達成しました。

(5) 「リビング・ウイル電話医療相談」では、会員・非会員を問わず、終末期医療に関する多様な相談を受け付けており、令和7年度には446件の相談に助言を行いました。さらに、「皆様に寄り添う医療相談」サイトを活用し、市民に寄り添った情報提供に取り組んでいます。

2. 登録管理事業

(1) 年度末の登録会員数は68,800名となり、前年度比6,261名の減少となりました。新規入会者数は1,448名(前年度1,532名)で84名の減少、退会者数は7,709名(前年度7,828名)で119名の減少でした。依然として会員数は減少傾向にあり、厳しい状況が続いています。

(2) 会員管理システムでは、スマートフォンから会員証のQRコードを読み取り、本人が登録した「リビング・ウイル」を表示する機能、または協会ホームページを表示する機能のいずれかを選択できる仕組みを提供しています。前者の利用者は1,346名(前年度997名)、後者は1,483名(前年度1,224名)で、合計2,829名(前年度2,221名)が切り替えを行いました。新会員証の再発行累計数は1万件を超え、10,705枚に達しており、多くの方に利用されています。

3. 調査研究及び提言事業

<調査研究事業>

- (1) 本部と東北・関東甲信越・東海北陸・関西・四国・九州の6支部で、「リビングウイル研究会」を開催しました。
- (2) 令和7年(1月~12月)の「ご遺族アンケート」がまとまり、会報201号(令和8年4月)に掲載しました。会員のご遺族523名から回答が寄せられ、協会のリビング・ウイルが役立ったかどうかの質問には、96%のご遺族が効果を認めています。
- (3) 令和6年9月、アイルランド・ダブリンで開催された「死の権利協会世界連盟」世界大会で、日本が令和8年の開催地に選ばれました。協会は創立50周年となる令和8年に、「日本尊厳死協会創立50周年記念 第26回尊厳死協会世界連盟東京大会2026」(以下、「東京大会」という)を11月25日~28日に都市センターホテルで開催します。理事を中心に準備委員会を設置し、運営・学術・広報部会や事務局を立ち上げて準備を進めています。また、50周年記念刊行物として「年表が語る協会50年の歩み」や「四季の歌(和英併記)」の制作も進めています。

<提言事業>

- (1) 令和8年の「東京大会」では、各国の尊厳死・安楽死制度や議論の実情を共有し、終末期をどう迎えるかを多角的に考える場とします。カナダの医師介助死や韓国の延命措置中止など異なる制度を踏まえつつ、「自己決定に基づく尊厳ある死」という理念のもと相互理解を深め、終末期医療を社会全体で議論する機会とすることを目指します。
- (2) 令和6年12月、協会は法制化推進委員会でまとめた法律案を「終末期における本人意思の尊重を考える議員連盟」に提出しました。令和7年度は与野党の力関係の変化により議論が進みにくい状況にありますが、協会は今後も議員連盟と連携し、尊厳死の法制化に向けた取り組みを継続していきます。

4. 収益事業

不動産を含む遺贈を受けたことに伴い、令和7年8月より、収益事業として不動産貸付業を開始しました。建物の一部である賃貸アパートについて、入居者の次期契約更新時まで管理・運営を行うこととしています。

5. 管理部門

- (1) 令和7年度予算は、当初20百万円の赤字予算を計上し、会員数減少に伴う収益減及び費用増により赤字拡大を見込んでいましたが、複数の遺贈を受け入れたことにより、経常収益は261百万円、経常費用は185百万円となり、当期経常増減額は76百万円の黒字となりました。
- (2) 不動産を含む遺贈を受け、令和7年8月から不動産貸付業を新たに収益事業として開始し、その開始に伴い区分経理を導入しました。
- (3) 公益認定法改正の令和7年4月1日施行に伴い、当協会では法人運営の在り方や新会計基準の習得に努めてまいりました。令和7年度決算までは旧会計基準を適用し、令和8年度より新会計基準へ移行します。

事業報告（詳細）

1. 普及啓発事業

市民への「リビング・ウイル」の普及啓発と適正な理解を深める事業

(1) リビング・ウイルの普及啓発活動

① 講演会・セミナー等

支部・県組織が主催するリビング・ウイル普及啓発活動は、当初計画では講演会 45 回、セミナー 52 回、出前講座 36 回の計 133 回を予定していましたが、実績は講演会 35 回、セミナー 54 回、出前講座 34 回の計 123 回となりました。当初計画と比べると回数・参加者ともに減少したものの、前年度比では運営方法の多様化もあり回数はわずかに増加しました。一方で参加者数は減少しています。なお、講演会・セミナー等の動画はホームページから視聴できます。支部別・項目別の実績は下表のとおりです。

<令和 7 年度開催・参加者一覧>

(単位：回、名)

項目	講演会		セミナー等		出前講座		7 年度計		6 年度計		参加 差異
	回数	参加	回数	参加	回数	参加	回数	参加	回数	参加	
北海道	5	397	4	145	3	125	12	667	8	874	△207
東北	2	140	4	75	3	86	9	301	11	402	△101
関東甲信越	11	738	22	305	7	348	40	1,391	47	1,471	△80
東海北陸	5	217	9	170	2	179	16	566	14	438	128
関西	2	121	9	257	9	187	20	565	11	434	131
中国地方	3	153	5	71	6	241	14	465	8	313	152
四国	2	152	0	0	1	33	3	185	7	206	△21
九州	5	509	1	13	3	60	9	582	13	843	△261
計	35	2,427	54	1,036	34	1,259	123	4,722	119	4,981	△259

※ 支部や県組織から月次で報告された普及活動情報は、「支部別の普及活動実績」として支部長、支部理事・県組織役員等へメールにて連携され、新たな普及啓発先の開拓や手法の生み出し等に反映しています。

※ 詳細は、別添資料「令和 7(2025)年度支部事業報告」を参照。

<学会・イベント等>

学会や各種イベントにおいて講演及び展示を通じた普及啓発活動を行いました。

- ・令和 7 年 4 月 12 日から 17 日に東京・渋谷ヒカリエで開催された「Death フェス 2025」に出展し、「死をタブー化せず考え語り合う」という趣旨のもと、10 代から 90 代まで延べ 4,200 名の来場者に当協会の活動を紹介しました。
- ・同年 4 月 26 日、千葉県柏市で三井住友信託銀行との共催により「終活カレッジ in 柏」を開

- 催しました。「人生 100 年時代の終活」をテーマに、同行と当協会が協働で講演しました。
- ・同年 6 月 14 日～15 日に開催された「第 7 回日本在宅医療連合学会大会」に協賛し、意思決定支援や ACP に関するシンポジウムへ参画いたしました。
 - ・同年 10 月 10 日～11 日に東京・浜松町で開催された「第 25 回日本メンズヘルス医学会」に協賛し、当協会北村義浩理事長が尊厳死と ACP に関する講演を行いました。

② 雑誌広告等

協会では、中央公論新社の雑誌「婦人公論」に広報記事を掲載しています。令和 7 年 5 月号（4 月 15 日発売）から令和 8 年 4 月号（3 月 15 日発売）において下表の内容を掲載しました。

掲載号	掲載内容
令和 7 年 5 月号	がん闘病中の緩和ケア医が考える、よりよい最期の迎え方とは
令和 7 年 6 月号	「命は最期まで自分のもの」、リビング・ウイルで実現できた
令和 7 年 7 月号	義母の病床で医師が教えてくれた「リビング・ウイル」という選択
令和 7 年 8 月号	「リビング・ウイル」と心のケアの意義
令和 7 年 9 月号	母は「自分の生き方」を貫いて思い通りの最期を叶えました
令和 7 年 10 月号	終末期の希望は一人ひとり違う だからこそ意思を伝えたい
令和 7 年 11 月号	55 歳で亡くなった夫にとって「リビング・ウイル」は支えだった
令和 7 年 12 月号	最後までその人らしく生き抜くーそれが尊厳ある死なのです
令和 8 年 1 月号	年末年始に家族と話そう 自分らしい人生の幕引き / リビング・ウイル、緩和ケア、代諾者…… 知っておきたい「尊厳死」のこと
令和 8 年 2 月号	「リビング・ウイル」は家族にとっても大事な導き
令和 8 年 3 月号	あらゆる事態を想定して準備する そして笑って最期を迎えたい（前篇）
令和 8 年 4 月号	あらゆる事態を想定して準備する そして笑って最期を迎えたい（後篇）

また、『學士會会報』（令和 8 年 1 月号）に会員募集広告を掲載しました。同誌は、七大学出身で各界を代表する会員による論考・寄稿文を掲載し、明治 20 年（1887 年）の創刊以来、學士會会員に広く親しまれている会報誌です。

<講義用資料の提供>

大学・大学院の医学部、歯学部、看護学部へ尊厳死等に関する講義用資料を提供しました。

大学名	講義名	資料提供数
東北医科薬科大学医学部	医学法学	97
東北大学歯学部	医の倫理・社会の倫理	45
宮城大学看護学群	医療倫理学	98
宮城大学大学院看護学専攻	看護倫理	6

(2)受容協力医師

市民が居住地で安心して過ごせる環境を整えるため、受容協力医師数の拡充を目指して活動を行っています。当初計画は、登録増 100 名を目標とし、2,250 名体制を目指していましたが、登録医師数は年度初めの 2,130 名から 15 名減少し、年度末の登録者数は 2,115 名となりました。

<受容協力医師登録数>

(単位：名)

支部	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	前年差異
北海道	82	79	82	86	83	▲3
東北	59	65	70	63	63	0
関東甲信越	689	683	739	735	736	1
東海北陸	177	181	200	198	189	▲9
関西	149	152	182	185	185	0
中国地方	249	241	241	236	239	3
四国	360	333	323	310	305	▲5
九州	292	287	299	317	315	▲2
合計	2,057	2,021	2,136	2,130	2,115	▲15

(3)リビング・ウイル ファシリテーター養成研修会

令和 8 年 1 月 10 日～11 日、長崎県平戸市において合宿研修「第 6 回ファシリテーター養成研修会」を開催しました。本研修には、九州支部（佐賀県・長崎県）の理事を中心に、講師を含む 22 名が参加しました。参加者は在宅医療、プライマリ・ケア、緩和ケアの現場で活動する医療・介護・福祉分野の有識者であり、協会活動の現況と今後の展望について意見交換を行いました。

(4)小さな灯台プロジェクト

ご遺族アンケートに基づく「看取りのエピソード」の定期更新を中心に、中央公論社の『婦人公論』での連載を継続し、Web と紙媒体の両面からリビング・ウイルの普及に取り組みました。ユーザー拡大のため「投稿ひろば」を新設し、専門的知見をまとめた「情報BOX」も拡充しました。「看取りのエピソード」は本年度 128 件を追加し、累計 569 件となりました。年間総アクセス数は約 24 万 7 千 PV に達し、多くの当事者や家族、専門職に活用される媒体へと成長しています。

(5) 電話、メール医療相談

「リビング・ウイル電話医療相談」では、会員・非会員を問わず終末期医療に関する相談を受け付け、令和 7 年度は 446 件(前年度 552 件)の受電と 1,415 件(前年度 1,742 件)の相談に助言しました。また、「皆様に寄り添う医療相談」サイトでは、相談事例 11 件とニュースレター 7 件を追加掲載し、看護師が専門的な相談やリビング・ウイルに関する迷いや悩みを丁寧にお聴きし、助言・支援を行っています。電話・メール相談の結果は会報（令和 8 年 7 月号）に掲載予定です。

<医療相談の内容>

(単位:件、%)

順位	相談(大分類)	令和5年度		令和6年度		令和7年度	
		件数	比率	件数	比率	件数	比率
1	尊厳死医療相談	891	43	842	48	678	48
2	一般医療に関すること	638	31	512	30	400	28
3	メンタル相談	403	20	318	18	292	21
4	その他	120	6	70	4	45	3
	計	2,052	100	1,742	100	1,415	100

会報各号に掲載した電話・メール医療相談の質問・対応は、下表のとおりです。

<会報掲載の内容・・・電話・メール医療相談から>

会報発行月	番号	ケース
令和7年4月発行 No.197	19	人生の最終段階はどうありたいか
令和7年10月発行 No.199	20	人工透析についての重いさまざまな相談
令和8年1月発行 No.200	21	おひとりさま、おふたりさまの終活相談

(6) 会報

会報は、年4回発行し、ホームページでも公開しています。各号の記事は下表のとおりです。

掲載月	会報号	会報『Living Will』の主な記事
令和7年 4月号	No.197	<ul style="list-style-type: none"> ・第13回日本リビングウィル研究会から抄録 良き死とは～「良き死」を達成するにはどうすればいいのか～ ・2024年「ご遺族アンケート」の結果 ・「小さな灯台プロジェクト」ガイドー代諾者(医療の代弁者)について考える～
令和7年 7月号	No.198	<ul style="list-style-type: none"> ・ホスピスや緩和ケアはもっとあるべき インタビュー 倉本 聰氏 (脚本家) ・2025年度事業計画・予算決まる ・2024年度「電話医療相談」結果まとまる ・「小さな灯台プロジェクト」ガイドー高齢者の「孤独死」「孤立死」そして「自死」
令和7年 10月号	No.199	<ul style="list-style-type: none"> ・【会報200号に向けて】著名人が語った「尊厳ある死」① インタビュー 柳田邦男氏 (ノンフィクション作家) 鮫島有美子氏 (ソプラノ歌手) ・「第14回日本リビングウィル研究会」の案内 (開催告知) 尊厳死と安楽死のはざま～最期の迎え方を選べる社会へ～ ・「小さな灯台プロジェクト」ガイドー心を通い合わせる「伝心力」が問われていますーACPのすすめー

令和8年 1月号	No.200	<ul style="list-style-type: none"> ・【会報 200 号を迎えて】著名人が語った「尊厳ある死」② インタビュー 篠田節子氏（作家） 樋口恵子氏（評論家） ・年頭所感 北村義浩理事長 ・「東京大会」のご案内（開催告知） テーマ「MY LIFE, MY CHOICE」 開催日時 2026年11月25日(水)～28日(土) 場所 都市センターホテル ・「死の兆候に関する研究」成果の報告 矢加部満隆氏、小川純人氏(東京大学医学部附属病院老年病科) ・「小さな灯台プロジェクト」ガイド 一新コーナー【投稿ひろば】誕生！
-------------	--------	--

(7) ホームページ

- ・令和7年12月に、「東京大会」のホームページを公開しました。
- ・支部(県組織を含む)が翌月以降に開催するイベント・講演会のご案内をトップページに掲載し、広報に努めています。
- ・TBS ラジオで放送していた「日本尊厳死協会プレゼンツ【My LIFE! My CHOICE!!】」は、令和6年9月に放送を終了しましたが、引き続き著名人へのインタビューや協会役員による質疑応答コーナーを含む動画については、TBS ラジオの協力により公開しています。

(8) 書籍販売

書籍販売事業では、「リビングウイルノート」（改訂版）の販売が引き続き収益に貢献しました。（前年度の販売部数 521 冊）

<書籍販売リスト>

（単位：冊、円）

タイトル	販売部数	金額
リビングウイルノート	512	642,700
DVD -いのちの遺言状-	1	1,100
バッジ・ペンダント	6	3,000
計	519	646,800

II. 登録管理事業

会員自らの終末期意思を書面で表明した「リビング・ウイル（終末期医療における事前指示）」の登録と管理を行う事業

1. 会員登録情報

- (1) 令和7年度の新入会は、1,560名(月130件)を計画しましたが、実績は1,448名(前年度1,532名)となりました。一方で、退会者数は7,709名(前年7,828名)となり、会員数が68,800名となり、対前年比では6,261名(前年6,303名)の減少となりました。本部・支部では、会報、雑誌等のマスメディアや講演会・セミナー等を通じて新入会の勧誘を行っています。
- (2) 会員管理システムでは、スマートフォンから会員証のQRコードをスキャンして、本人が登録した「リビング・ウイル」を表示する機能または協会ホームページを表示する機能を選択できる仕組みを構築しました。前者は1,346名、後者は1,483名、計2,829名が切り替えしました。なお、新会員証の発行枚数は、年度末で10,705名となりました。

< 会員種別の年度別推移 >

(単位：名)

項目	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	前年差異
正会員	46,550	44,902	43,383	41,391	39,263	▲2,128
夫婦会員	23,544	21,418	19,506	17,632	15,710	▲1,922
終身会員	4,723	4,727	4,767	4,772	4,777	5
減額会員	19,584	16,457	13,708	11,266	9,050	▲2,216
合計	94,401	87,504	81,364	75,061	68,800	▲6,261

< 支部別会員数推移 >

(単位：名)

項目	6年度	新入会	退会					7年度	対前年
			死亡	退会	3年未納	調整	退会計		
北海道	3,698	51	103	118	192	▲3	410	3,339	▲359
東北	2,494	53	57	57	103	▲1	216	2,331	▲163
関東甲信越	42,314	805	1,306	1,113	1,852	0	4,271	38,848	▲3,466
東海北陸	6,823	131	205	182	352	0	739	6,215	▲608
関西	10,968	230	314	271	572	▲12	1,145	10,053	▲915
中国地方	2,146	35	54	49	108	▲2	209	1,972	▲174
四国	1,417	19	39	35	71	0	145	1,291	▲126
九州	5,201	124	146	154	277	▲3	574	4,751	▲450
計	75,061	1,448	2,224	1,979	3,527	▲21	7,709	68,800	▲6,261

※6年度実績 81,364 1,532 2,323 1,932 3,590 17 7,828 75,061 ▲6,303

※調整とは、会員の引越し、退会取り消しによる誤差

<新規入会者年齢別構成>

(単位：名)

年齢	6年度		7年度	
	入会者数	構成比(%)	入会者数	構成比(%)
10代	0	0.0	0	0.0
20代	5	0.3	8	0.6
30代	13	0.8	23	1.6
40代	65	4.2	48	3.3
50代	183	11.9	173	12.0
60代	319	20.8	312	21.5
70代	520	33.9	476	32.9
80代	371	24.2	358	24.7
90代	56	3.7	48	3.3
100代	0	0.0	2	0.1
総計	1,532	100.0	1,448	100.0

<5年毎の新規入会者の平均年齢>

(単位：歳)

入会年度	男性会員	女性会員	平均年齢
1976年～1980年	57.95	55.80	56.91
1981年～1985年	63.94	61.44	62.50
1986年～1990年	64.61	63.26	63.69
1991年～1995年	64.19	63.25	63.56
1996年～2000年	66.70	65.93	66.20
2001年～2005年	68.91	68.45	68.61
2006年～2010年	70.36	69.81	70.02
2011年～2015年	72.16	71.63	71.84
2016年～2020年	72.23	71.42	71.74
2021年～2025年	71.42	71.05	71.19

2. メルマガ通信

メルマガ通信による会報配信は、新規会員が増えている一方で、既存会員の死亡退会も多く登録数は微減で推移しています。一方、本部から月次で、メルマガ会員宛に講演会やセミナー等の開催情報を発信し、参加者増に寄与しています。

<メルマガ発信数>

(単位：件、%)

発信日	配信登録件数	成功数	失敗数	成功率
令和7年6月(198号)	6,749	6,741	8	99.9
令和7年9月(199号)	6,724	6,711	13	99.8
令和7年12月(200号)	6,652	6,642	10	99.8
令和8年3月(201号)	6,640	6,635	5	99.9

3. 会報等新規返戻者の住所解明報告

- (1) 会費3年未納による退会（移転先住所不明、会費3年未納による退会）が多くなり、初期段階からの解明作業を継続実施しています。その結果は、下表のとおりです。
- (2) 毎号の会報に、住所変更の記事を掲載し、会員への呼びかけをしています。
- (3) 年会費未納の会員及び郵便物が2回返送された会員に対しては、令和7年1月号の会報より、発送を一時中止するようシステムを変更しました。

<新規返戻者の住所解明結果>

(単位：件)

年月	解明				解明不可						合計	解明率 (%)
	解明済	死亡	退会	小計	コールのみ	電話不使用	電話登録無	非居住	他	小計		
令和7年4月号	37	3	6	46	15	112	22	1	34	184	230	20.0
令和7年7月号	37	7	4	48	40	104	32	0	32	208	256	18.8
令和7年10月号	23	2	3	28	34	128	31	1	37	231	259	10.8
令和8年1月号	29	9	5	43	36	130	19	1	34	220	263	16.3
計	126	21	18	165	125	474	104	3	137	843	1,008	16.4

4. 口座振替件数の推移

会費の入金経路の利用は、コンビニ、郵便局の順でありコンビニ利用率が高くなっています。毎号の会報では、事務局から「会費の自動払込(口振)」利用のご紹介をしており、口振利用率が微増しました。

<年会費入金経路> 令和8年3月31日現在

(単位：件、%)

請求月	払込件数					構成比				
	コンビニ	郵便局	口座振替	銀行等	合計	コンビニ	郵便局	口座振替	銀行等	合計
令和7年4月	7,694	3,413	876	428	12,411	62.0	27.5	7.1	3.4	100.0
令和7年7月	6,272	2,639	787	369	10,067	62.3	26.2	7.8	3.7	100.0
令和7年10月	5,682	2,462	722	307	9,173	61.9	26.8	7.9	3.3	100.0
令和8年1月	5,711	2,595	721	389	9,416	60.7	27.6	7.7	4.1	100.0
計	25,359	11,109	3,106	1,493	41,067	61.8	27.1	7.6	3.6	100.0

※6年度実績 27,908 12,065 3,114 1,354 44,441 62.8 27.1 7.0 3.1 100.0

5. WEB 入会システムからの入会者拡充

平成 29(2017)年から開始した WEB 入会登録数が年度末で 2,577 名となりました。徐々に 30～60 代の入会に効果がでています。

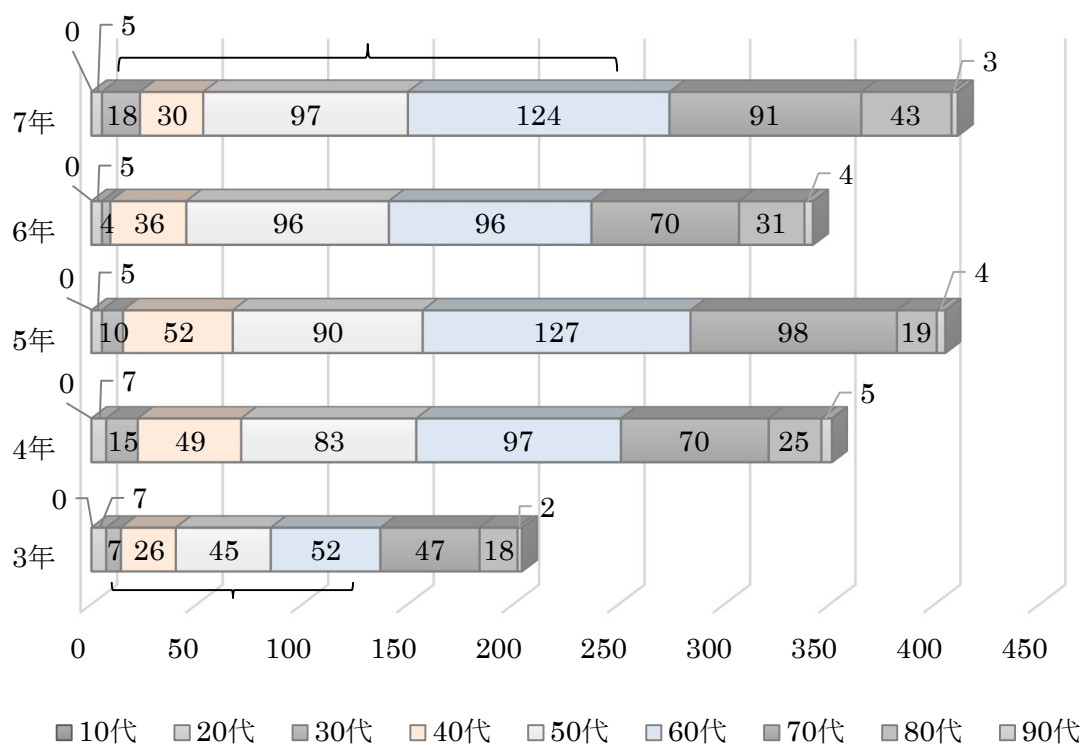
<WEB 入会システム入会者数>

(単位：名、%)

年代	年度別入会者数						入会者数累計			
	～2年	3年	4年	5年	6年	7年	正会員	終身	計	構成比
10代	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0.0%
20代	18	7	7	5	5	5	44	3	47	1.8%
30代	33	7	15	10	4	18	82	5	87	3.4%
40代	133	26	49	52	36	30	306	20	326	12.7%
50代	239	45	83	90	96	97	621	29	650	25.2%
60代	231	52	97	127	96	124	693	34	727	28.2%
70代	168	47	70	98	70	91	525	19	544	21.1%
80代	38	18	25	19	31	43	167	7	174	6.8%
90代	3	2	5	4	4	3	20	1	21	0.8%
総数	864	204	351	405	342	411	2,459	118	2,577	100.0%

注)年代は入会時の年代

WEB入会システム入会者数のグラフ



Ⅲ. 調査研究及び提言事業

国内外の終末期における医療のあり方・選択、リビング・ウィル等に関する調査・研究及びこれらの情報・研究に基づいて社会への提言を行う事業

1. 日本リビングウィル研究会

終末期のあり方に関し、医師、患者、関係者及び聴講者等の生の声に基づく情報収集や調査及び研究活動の場として、本部と6支部で「日本リビングウィル研究会」を開催しました。

<本部>

項目	内容
日時	令和7年12月13日(土)13:00~16:30
名称	第14回日本リビングウィル研究会
場所	東京大学 伊藤謝恩ホール (会場+ウェビナー)
参加者	会場200名、ウェビナー150名 計350名
テーマ等	尊厳死と安楽死のはざま

<東北支部>

項目	内容
日時	令和7年9月28日(日)13:00~16:00
名称	第11回東北リビングウィル研究会
場所	いわて県民情報交流センター7階 アイーナホール
参加者	73名
テーマ等	お家に帰ろう

<関東甲信越支部>

項目	内容
日時	令和8年2月15日(日)15:00~16:30
名称	LW受容協力医師研究会
場所	オンライン開催
参加者	21名
テーマ等	グループディスカッション(参加者を4つに分けて)

<東海北陸支部>

項目	内容
日時	2025年11月2日(日)13:30~16:00
名称	令和7年度リビングウィル研究会東海北陸地方会
場所	ウイंकあいち(愛知県産業労働センター)9階 会議室902
参加者	93名
テーマ等	尊厳を保って生き抜くための支援

<関西支部>

項目	内容
日時	令和8年3月8日(日)14:00~16:30
名称	関西リビングウイル研究会
場所	TKP 新大阪カンファレンスセンター ホール 4B
参加者	108名
テーマ等	腎不全の緩和ケア

<四国支部>

項目	内容
日時	令和7年11月9日(日)13:00~15:00
名称	令和7年度四国支部リビングウイル研究会 in 徳島
場所	徳島市医師会館 4階会議室
参加者	100名
テーマ等	ケアリビングウイルと人生会議

<九州支部>

項目	内容
日時	令和8年2月22日(日)13:00~16:30
名称	九州支部リビングウイル研究会 in 福岡
場所	久留米シティプラザ3階 久留米座
参加者	100名
テーマ等	いのちの終わりをどう生きるかー世代を超えて考える命と尊厳のあり方ー

2. 人生の最終段階における臨床経過並びに死の兆候に関する研究

協会と東京大学医学部附属病院老年病科との共同研究である「人生の最終段階における臨床経過ならびに死の徴候に関する研究」では、アンケート内容の解析を行い、令和6年度中に臨終の徴候や臨床経過の体系化に関する報告をまとめ、英文論文化を投稿しました。

その結果、同アンケート解析に基づく英文原著論文が、PLoS One において令和8年2月11日に採択アクセプトされ、掲載されました。

3. 死の権利協会世界連盟

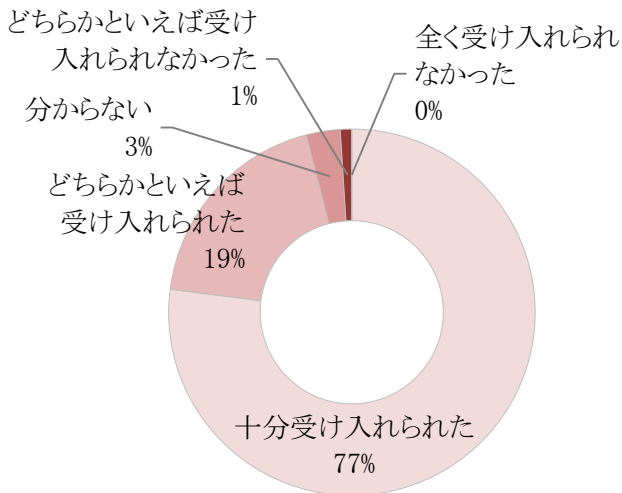
- (1) 令和6年9月、アイルランド・ダブリンで死の権利協会世界連盟 (The World Federation of Right to Die Societies) の世界大会が開かれ、当協会からは世界連盟理事の北村理事長をはじめ3名の理事が参加しました。この大会で、令和8(2026)年の開催地に立候補し、東京での開催が満場一致で決定しました。
- (2) この決定を受け、令和8年11月25日~28日に都市センターホテルで「東京大会」を開催する予定です。協会内では開催準備委員会を立ち上げ、運営部会、学術部会、広報部会、事務局を設置し、入念に準備を進めています。

(3) また、50周年記念刊行物として「年表が語る協会50年の歩み」や、会報で好評の「四季の歌」をまとめた和英併記版の制作も進めています。

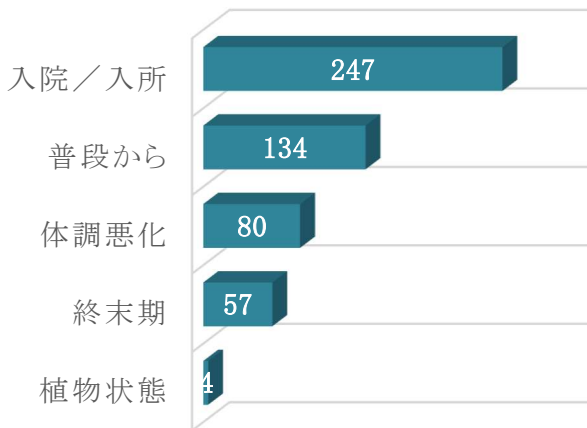
4. ご遺族アンケート集計結果

令和7年（令和7年1月～同年12月）の「ご遺族アンケート」がまとまり、会報No.201号（令和8年4月）に掲載しました。会員のご遺族523名からアンケートへのご協力があり、協会リビング・ウイルが役立ったか否かは、96%のご遺族が効果を認めています。

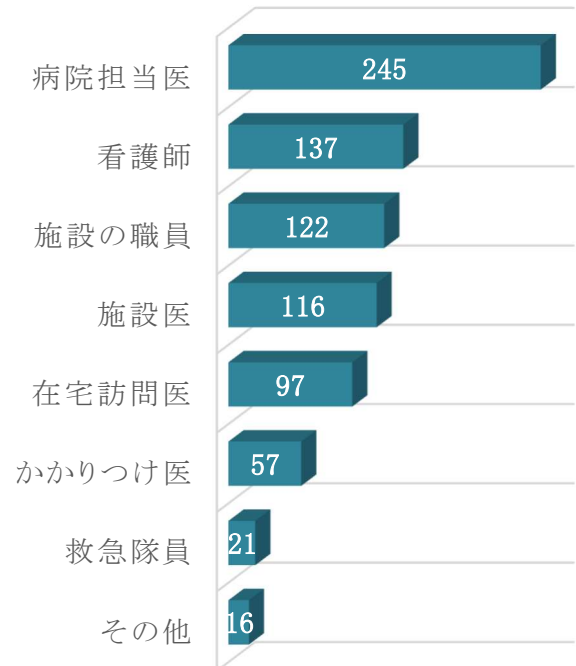
<リビング・ウイルは受け入れられましたか?>



<提示先は?>（複数回答）



<提示時期は?>（複数回答）



5. 提言活動

- (1) 令和8年の「東京大会」では、各国の尊厳死や安楽死の制度と議論の実情に視野を広げ、終末期をどう迎えるかについて多角的に考える場とします。カナダの医師介助死や韓国の延命措置中止の法制化など、国ごとに異なるアプローチを共有しつつ、「自己決定に基づく尊厳ある死」という普遍的理念のもとで相互理解を深めます。本大会を通じて社会全体で終末期医療を率直に議論し、その重要性を国内外に発信する機会としたいと考えています。
- (2) 令和6年12月、協会内法制化推進委員会で取りまとめた法律案一式を「終末期における本人意思の尊重を考える議員連盟」に提出しました。令和7年度は与野党の力関係が変化した影響もあり、議論は容易ではありませんが、協会は引き続き法制化に向けた議論に積極的に関わり、実現を目指して活動を続けていきます。今後も議員連盟の取り組みを全面的に支え、尊厳死の法制化に向けた協会の活動を着実に進めていきます。

IV. 収益事業

不動産を含む遺贈を受けたことに伴い、令和7年8月より、収益事業として不動産貸付業を開始しました。建物の一部である賃貸アパートについて、入居者の次期契約更新時まで管理・運営を行うこととしています。

V. 管理部門

1. 中国地方支部の支部名改称

令和7年12月13日の理事会承認を受け、中国地方支部の名称を「中国支部」へ変更しました。これに伴い関係規程の一部改正を行い、平成8年4月1日より施行します。

2. 収支決算

令和7年度予算は、当初20百万円の赤字予算を計上し、会員数減少に伴う収益減及び費用増により赤字拡大を見込んでいましたが、複数の遺贈を受け入れたことにより、経常収益は261百万円、経常費用は185百万円となり、当期経常増減額は76百万円の黒字となりました。また、不動産を含む遺贈を受け、令和7年8月から不動産貸付業を新たに収益事業として開始し、その開始に伴い区分経理を導入しました。

3. 費用削減等

- (1) 令和2年11月に開催された理事会において、「ウィズコロナ」時代の法人業務の見直しが決議されています。この決議に基づき、支部や県組織と協議を重ねながら、講演会・セミナー等のチラシ作成や案内状の発送、現地スタッフの支援など、サポートを実施しています。支部が普及活動に専念できるよう本部・支部間の連携も一層強化しています。

- (2) 令和7年1月、国の旅費制度見直しを踏まえ、関係規程の一部改正を行いました。宿泊費は定額から上限付き実費支給へ改め、基準額超過分も実費支給できる規定を新設しました。また、移動と宿泊を一体化したパック旅行商品の活用を促す規定も追加しました。
- (3) 理事会、評議員会、支部理事会などの各種会議や情報交換、出張においては、zoom を積極的に活用し、旅費・交通費の削減に努めました。
- (4) 郵送料の大幅な値上げへの対応として、年会費未納の会員及び郵便物が2回返送された会員については、令和7年1月号の会報から発送を一時停止するシステムを導入しました。

4. 公益認定法改正

公益認定法改正が令和7年4月1日より施行されたことに伴い、当協会では法人運営の在り方や新会計基準に関する知識の習得に努めてまいりました。令和7年度決算までは旧会計基準を適用し、令和8年度より新会計基準へ移行してまいります。

VI. 評議員会・理事会

令和7年度開催状況は下表のとおりです。決議事項は、全件承認されました。

1. 評議員会

開催日	会議名	議題
令和7年6月15日(日)	第17回定時評議員会 協会本部(zoomにて)	<決議事項> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年4月からの新公益法人制度施行に向けて定款を一部改定する件 ・令和6年度事業報告、収支決算報告について ・評議員の選任の件 ・理事の役員改選の件 <報告事項> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度事業計画、収支予算案及び資金運用方針について

2. 理事会

開催日	会議名	議題
令和6年5月24日(土)	第47回定時理事会 協会本部(zoomにて)	<決議事項> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年4月からの新公益法人制度施行に向けて定款を一部改定する件 ・令和6年度事業報告、収支決算報告の件 ・令和6年度監査報告及び令和7年度監査計画の件 ・評議員の選任、理事の役員改選、支部長職の改選等の件

		<ul style="list-style-type: none"> ・会員管理システム WEB 決済に関する改修が今期へ移行した件 ・第 17 回定時評議員会を招集する件 <p><報告事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 6 年度リビング・ウイル電話医療相談報告 ・終末期医療に関する意思表示支援=小さな灯台プロジェクト報告
令和 7 年 6 月 15 日(日)	第 48 回臨時理事会 協会本部(zoom にて)	<p><決議事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表理事選任に係る提案 ・副理事長、専務理事、外部理事、業務執行理事に係る提案 ・支部長職の選任に係る提案 ・重要な使用人に係る提案 ・定款の改定に伴い経理規程を一部改定する件 <p><報告事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・理事による職務執行報告 ・外貨定期預金について
令和 7 年 12 月 13 日(土)	第 49 回定時理事会 (東京大学内伊藤謝恩ホールギャラリー 1)	<p><決議事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国地方支部の名称変更及び関係規程の一部改正の件 ・旅費制度の見直しに伴う関係規程の一部改正の件 <p><報告事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・不動産を含む遺贈受け入れについて ・「東京大会」の準備状況 ・令和 7 年度中間収支予測報告 ・令和 7 年度上半期「小さな灯台プロジェクト」活動報告 ・令和 7 年度上期 LW 電話医療相談報告
令和 7 年 3 月 8 日(日)	第 50 回定時理事会 協会本部(zoom にて)	<p><決議事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 8 年度事業計画、収支予算及び資金運用方針・計画の件 ・尊厳死協会世界連盟における日本のいのちの尊厳賞(仮称)の創設について <p><報告事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「東京大会」の準備状況の件 ・令和 8 年度最終予測収支報告の件 ・公益財団法人の認定等に関する届出変更の件

VII. 専門委員会

1. 開催準備委員会及び部会等

「東京大会」に向けて、MICE 業者との全体会議、4 部会、事務局幹部会で議論を重ねました。

会議名	開催日 (回数)
MICE 業者との全体会議	令和7年7月1日、同年9月9日、同年11月18日、 令和8年1月26日 (計4回)
学術部会	令和7年4月27日、令和8年3月6日、同年3月23日、 同年3月27日 (計4回)
運営部会	令和7年4月17日、同年5月27日、同年12月8日、 令和8年1月15日 (計4回)
広報部会	令和7年4月14日 (計1回)
事務局幹部会	令和7年5月30日、同年6月15日、同年7月9日、 令和8年3月6日 (計4回)

2. 支部長会

支部担当役員が主催。全支部長との情報共有により、活動のさらなる発展を目的として zoom 開催しました。

回	開催日	議案
1	令和7年4月28日(月)	県単位活動推進アンケート結果、支部運営規程による宿泊費の条件
2	令和7年8月25日(月)	出張旅費規程の改正、「東京大会」の準備進捗、中国地方支部の名称変更(提起)
3	令和7年11月27日(木)	旅費制度の見直しに伴う関係規程の一部改正、「東京大会」の準備進捗、中国地方支部の名称変更
4	令和8年2月12日(木)	支部予算確認、「東京大会」における支部プレゼンテーションと功労者表彰選定

以上